

第6回自治基本条例策定検討町民会議グループ討議結果

第1グループ意見

町民会議：三津橋会長、古屋委員、今井委員、小倉委員、西村委員

職員 PT：武田主幹、高橋主査、大野主任 事務局：長岡主幹、木原主査

【町政への参加】

アンケート調査

・地域担当職員制度ができれば、アンケート調査を行わなくても、町民ニーズの把握ができるのではないかと。

知恵の環

- ・もっとPRをすべきである。
 - ・紙が回覧と一緒に回ってきていない。
- 下川産業円卓会議（若者円卓会議）
- ・参加者はどんなメンバーなのか。
 - ・産業の方は経済界のトップ。若者の方は30～40代10名で開催。町対参加者という形ではなく、参加者同士の横断的な意見交換が目的。開催時期などのルールはない。
 - ・若者が集まって議論できるようなルールが必要。

町有林植樹祭・町民ふれあいバスツアー

- ・多くの方に参加してもらおうといい。

その他

- ・参加にも色々な形がある。計画時の参加、決定時の参加、行事の参加など。
- ・これからは政策決定時の住民参加が必要になる。事業も住民が望んでいるからという理由だけではダメ。

【評価・見直し】

評価システム

- ・作る職員も内容を見る町民も大変。
- ・行政の財政の中身は分かりづらい。

【議会】

- ・議会を日中開催しても仕事の関係で傍聴にいけない。
- ・インターネットライブ中継はできないのか。
- ・役場のロビーや公民館のホールでテレビ中継はできないのか。
- ・委員会審査の会議録はHPなどで公開しないのか。

第6回自治基本条例策定検討町民会議グループ討議結果

第2グループ意見

町民会議：岡崎委員、小日向委員、濱下委員、押田委員、我孫子委員

職員 PT：市田主査、今井主査、事務局：高橋課長、田村主査、蓑島主事

【情報の公開と共有】

公区長会議

- ・来年から実施の地域担当職員について、行政と公区長の考え方、感覚の違いがある。
- ・内部的にもまだ開きがある。イメージ的には今以上の自治組織の形に。地域計画づくりの手伝い等、地域経営への支援など。職員が共通意識を持つ必要あり、意識によって違いが出る。
- ・公区、班の関わり少ない。
- ・地域担当制の導入によりお互いのギャップを埋める形で進められる。
- ・公区長と民生委員の連携が必要、認知症予防教室とか本当に出てきて欲しい人が出てこない。

各種説明会

- ・説明会への参加者少ないのは、住民の意識が低いから。
- ・説明会だと既に決まった事、そこでどうこうなるものでなければ紙だけでも良い、そこで行政と町民が一緒に組み立てるのなら違う。
- ・行政懇談会を開催しても、町民が発言しない。
- ・行政が人の集まる所に出向き話す。実際に業務に携わっている人に説明して貰った方がよい。
- ・説明会を決定段階ではなく、過程段階で行うという方法もある。
- ・担当職員と直接の方が話しやすい。

広報車

- ・時間帯や時間差を考え、人の流れに合わせて行くと効果的では。

下川町ホームページ

- ・最新情報については、ここからは一週間分とかトップページの工夫をしては。下川町がテレビ等で報道、紹介されたりする場合、事前に放送時間などの情報を HP や情報発信で知らせては。
- ・そういう情報が分かれば、みんな見ると思う。

農業委員会だより

- ・見たことがない。
- ・農地だけではなく、中山間事業での地域の取り組みを紹介するなど、作り方工夫しては。

掲示板

- ・場所が悪い。みんなが見るものをそばに置いては。

その他

- ・病院だよりがあってもよい、若しくは病院からのお知らせ、もっと経営努力を。
- ・言葉、カタカナ、横文字はお年寄りにわかりづらいのでは、情報の発信方法を検討。
- ・お年寄り、若者などターゲットに合わせた作り方を。

【町政への参加】

- ・行政懇談会は地域担当制である程度フォローできるようになるのでは。
- ・行政の担当者に現場に来て欲しい。
- ・昔に比べ町民どおしのコミュニケーションが少なくなった。
- ・子供がもっと自然とふれあう機会を創出
- ・中学、高校は部活動等で時間が無い。
- ・知恵の輪、ゴミ収集 BOX に回収設置してみても。(ゴミを捨てにいくついでに投函、ゴミ収集時に回収)